

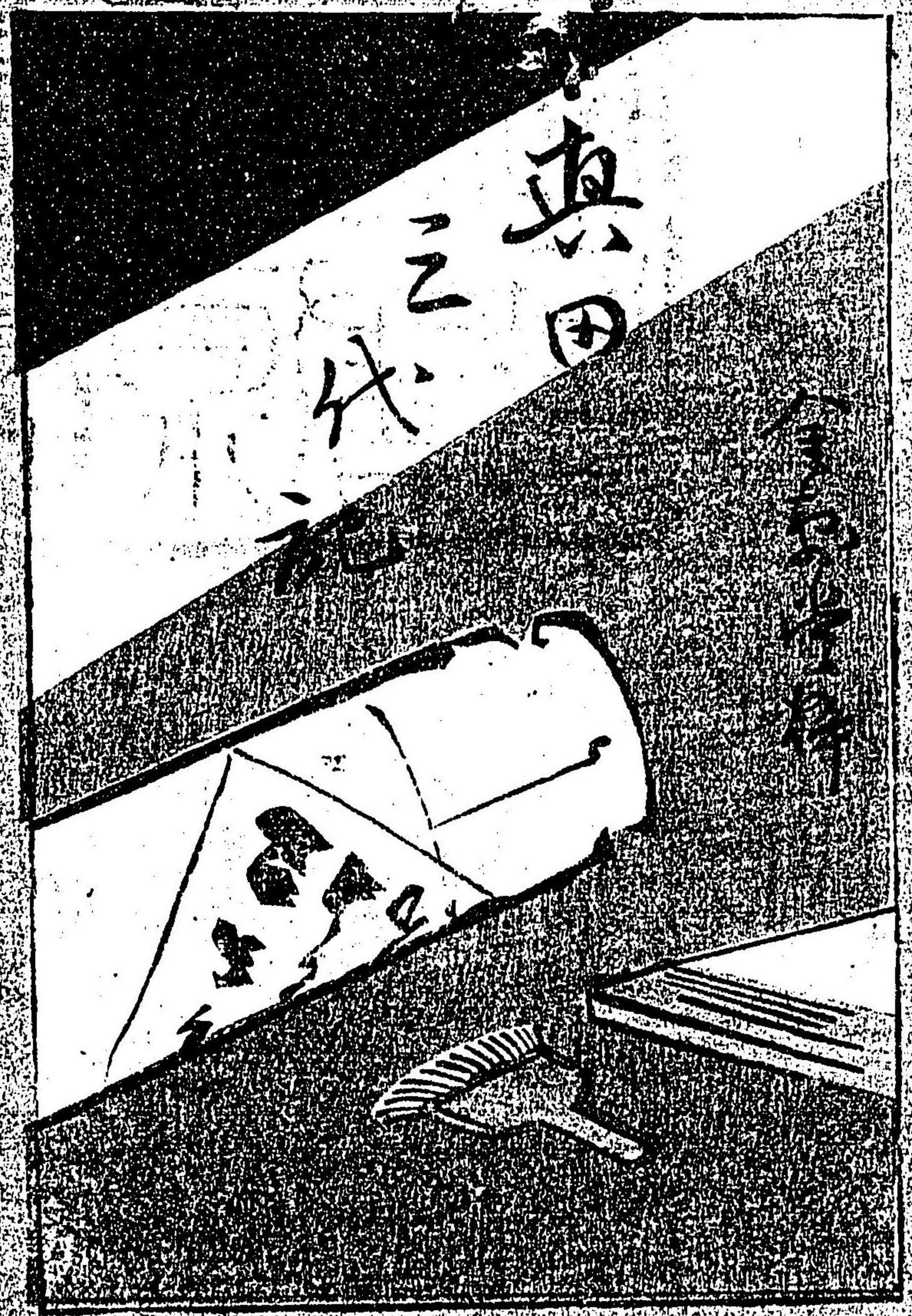
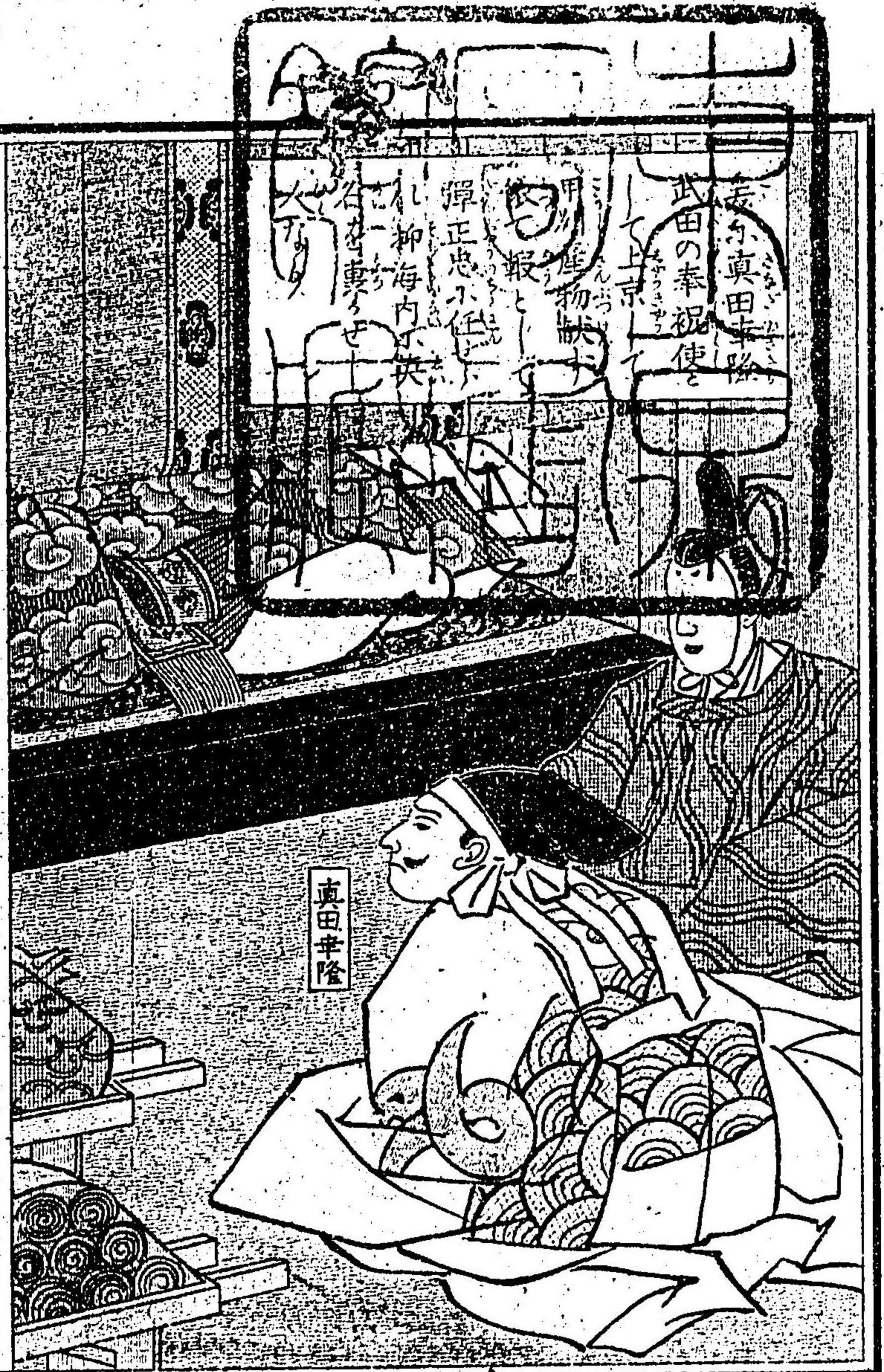
特59

943

奥田三代記 全



金壽堂梓
梅多國改筆





真田の家系といふハ
 清和の末流海野太
 郎幸氏の後胤真田
 暉正忠幸隆の三男
 安房守昌幸其次男
 小左門尉幸村其嫡
 男大助幸安なり此
 三代の英傑とく豊臣
 家小忠勤せし軍
 功志ばくなり

真田昌幸

武田信虎

真田三平言

真田の三男昌幸十四才まゐり七
越後井屋原の城を攻落し
大将太田持定坂井本間ホの
三将をうち安房守小まん
せらる無双の英い勇ゆうなり



真田昌幸



真田昌幸



伊奈九郎

真田昌幸伊奈九郎兵衛九尺計の鉄の棒を渡り合秘術を尽して戦じ昌幸計つて逃さすか一砂筒とて火繩の鉄炮討取り

真田三代

木下藤吉一首の歌
を以て信玄を悩ま
しむると金ども昌
幸の智謀却つて木
下竹中等をおどろ
かしむ



木下藤吉



武田信玄



真田昌幸

真田昌幸信
 玄を諫免け
 ねども用ひ
 らねど切服
 せんとし長
 坂釣閑之
 止む



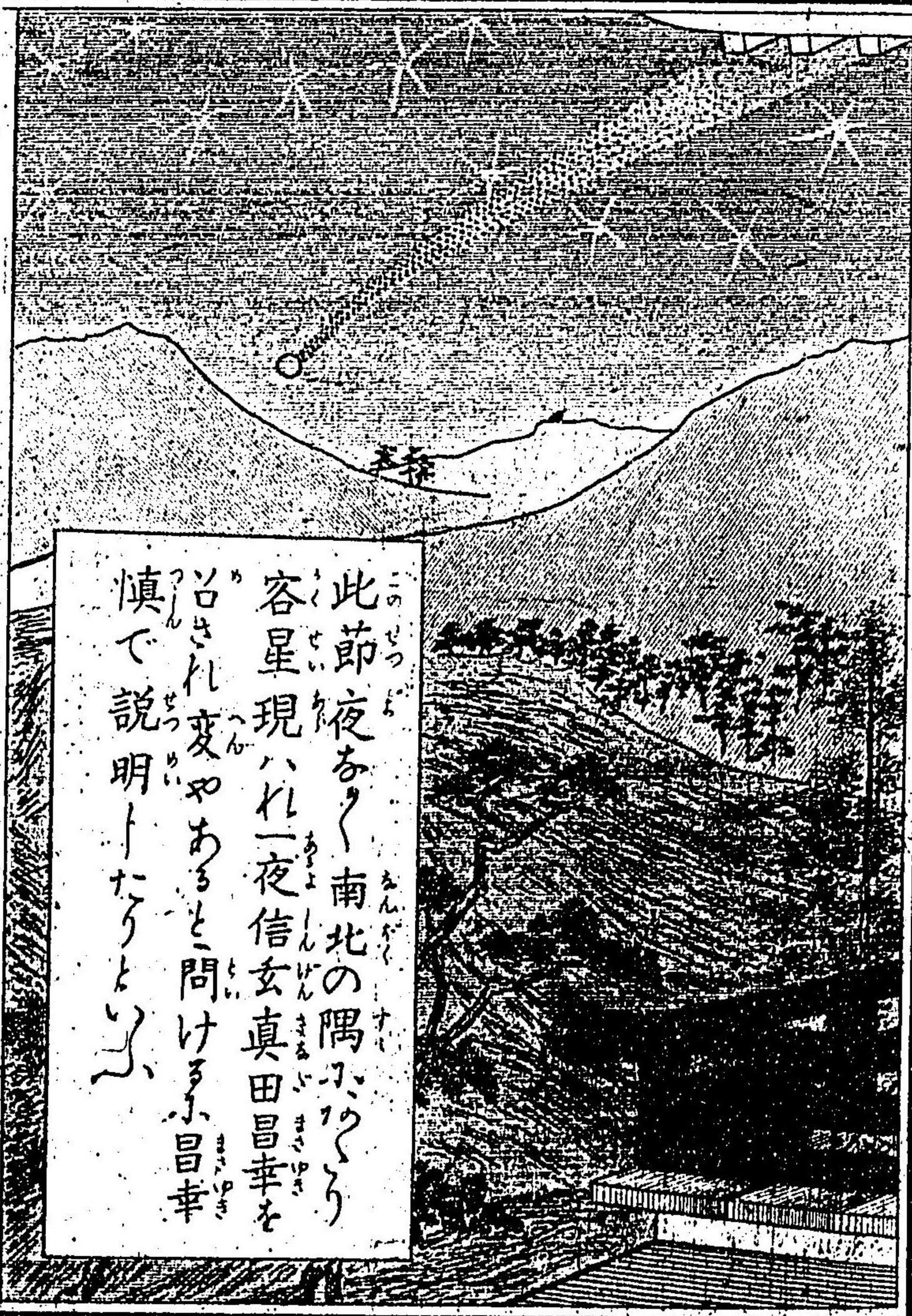
真田幸村僅十四
 大不して上杉景
 勝か陳不至り理を
 押して説明い上杉
 一へも出さずへ何て
 幸村が大智を賞
 けり

真田幸村





大道寺駿河守誤つて
地雷火どらいかふて味方あいかたを撃つ
大いおほいな狼おおかみ革かわは



此節夜をく南北の隅小つくり
 容星現ハレ一夜信玄真田昌幸を
 召され変やあると問ける小昌幸
 慎で説明したるよし



武田信玄

真田昌幸



真田幸村借秀
 吉の相を見て
 天下を領する
 君ありと竟知
 けれ、秀吉
 も又、村の秀
 才此外、うぶ
 と心中互ふ感
 君臣の約を結
 びけ。





真田三信

十一



真田三信

真田幸村

秀頼臣某あまの幸村を味方
 小頼も集るかり節幸村下駄の緒
 さら難儀い一居某其下駄をふ
 くさへのせ幸村か心中をささる

真田父子百五十人
 計りふて関小から
 此体を見て種々
 不おすこをすし
 けさびき故なく
 関を通りける是
 より幸村大坂城小
 入り関東の大軍
 を破り大功を顕す





東京淺草區南九町十二番地
明治十年二月廿日
同 年 三月十日出版
編輯兼 出版人
牧金之助

